

Ⅲ 2014（平成26）年度 「FD研修会」実施報告

1. 実施概要

2014（平成26）年度はFD研修会として各学部のFD委員がコーディネートする3つの研修会を実施した。それぞれの研修会の形式も講演会やグループディスカッション等様々で、専任教員は、希望する1つ以上の研修会に参加した。今年度の研修会の内容等は以下の通りである。

■ 1. テーマ：「第3のコミュニティーを創出する「ピア・ネット」」

講師：法政大学 学習ステーション長 木原 章教授

コーディネーター：人間文化学部人間文化学科 鷲見 朗子教授

日時：2014（平成26）年6月2日（月）17：00～18：30

場所：ユニソン会館 大会議室

概要：法政大学「ピア・ネット」で行われている、学生スタッフによるピア・サポート活動の成立過程や運営の様子が紹介された。教職員の協働のもと支援される学生と支援する学生双方の成長を促し、正課外教育を充実させている様子は、非常に興味深く本学での学生サポートにとって有意義な内容であった

■ 2. テーマ：「卒業論文の指導について（part2）」

内容：教員によるグループディスカッション

コーディネーター：生活福祉文化学部 三好 明夫教授

日時：2014（平成26）年6月6日（金）17：00～18：30

場所：ユニソン会館 社会学習センター2

概要：昨年度の「卒業論文の指導について（part1）」に引き続き part2 を開催した。

参加者は、4～5人のグループに分かれて、卒業論文の指導について話し合ったのち、グループでの議論の内容を発表した。昨年度は、問題点を提示するにとどまり、解決策について議論するまでに至らなかったことを踏まえ、問題点だけでなく解決方法についても各グループで話し合った。

■ 3. テーマ：「情報機器や情報ネットワークの教育利用～学生の主体的な学びのために」

内容：心理学部 神月 紀輔教授による講演「ICTを使った大学授業」、

Moodleの講習「e-Learning システムを体感しよう」、

システム管理課による情報機器の紹介「電子黒板を使ってみよう」

コーディネーター：心理学部 廣瀬 直哉教授

日時：2014（平成26）年6月12日（木） 17：00～18：30

場所：新ユーニア館1階ラーニングcommons、E209

概要：前半は、心理学部 神月紀輔教授による講演「ICTを使った大学授業」が行われた。

後半、参加者は2つのグループに分かれ、神月教授によるMoodleの講習「e-Learning システムを体感しよう」または、システム管理課による情報機器の使用方法的講習「電子黒板を使ってみよう」のいずれかに分かれ参加した。

■ 出席者数：

日時	内 容		コーディネーター・ 講師	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	その他（職員など）	総出席数
	実施形態	テーマ		英語英文学科	人間文化学科				
6月2日 (月) 17:00～ 18:30	講演	第3のコミュニティを創出する「ピア・ネット」	講師 法政大学 学習ステーション長 木原 章 教授 コーディネーター 人間文化学部 鷺見 朗子 教授	7	6	7	5	19	44
6月6日 (金) 17:00～ 18:30	教員による 討論	卒業論文の指導について (part2)	コーディネーター 生活福祉文化学部 三好 明夫 教授	0	4	5	2	2	13
6月12日 (木) 17:00～ 18:30	講演・ 講習	情報機器や情報ネットワークの教育利用～学生の主体的な学びのために	講師 心理学部 神月 紀輔 教授 システム管理課 コーディネーター 心理学部 廣瀬 直哉 教授	6	9	8	14	1	35
参加人員（のべ数） 計				13	19	20	21	22	92
構成員数 計				15	14	17	20		

2. 現状と今後の課題

今年度も昨年度と同様に複数の研修会を開催し、専任教員（および職員）が希望するものに参加する形でおこなった。

第1回の「第3のコミュニティを創出する『ピア・ネット』」は、唯一外部講師による講演であった。講師の法政大学の木原教授には、最初の学生スタッフの立ち上げから、最近の活動の様子まで詳しく説明いただき、支援される学生と支援する学生の成長が生き生きと伝わってきた。事後のアンケートへの回答をみると、「大変有意義であった」と「有意義であった」を合わせると約8割あり、講演の内容が本学の教職員にとって有益であったことが裏付けられた。本講演は多くの参加があり、特に職員の参加が多かった。アンケートの感想の中でも、「FD以外にも、SDのためにもなった」という意見があった。紹介いただいた法政大学の例は、大学の規模や構成も異なるので、そのまま使えるわけではないが、本学の規模にあった形でのピア・サポートを今後進めていくヒントが得られたの

ではないだろうか。

第 2 回の「卒業論文の指導について (part2)」は、昨年度に引き続き、生活福祉文化学部の三好教授が中心となって、卒業論文の指導についてグループでディスカッションを行った。卒論指導における課題としては、スケジュールの管理、学力・スキルの不足、研究倫理 (コピペ)、意欲の問題などが挙げられ、それに対する解決策が考えられた。すべての課題に対して有効な解決策が必ずしも出されたわけではないが、事後のアンケートへの回答をみると、「大変有意義であった」と「有意義であった」との回答が 100%であり、各教員の今後の卒論指導にとって役立つ内容であったように思う。

第 3 回の「情報機器や情報ネットワークの教育利用～学生の主体的な学びのために」は、心理学部の神月教授の講演・Moodle 講習とシステム管理課による情報機器の紹介であった。本学に新たに導入された機器やシステムについて知ることができるということで関心が高く、多くの参加者があった。事後のアンケートへの回答でも、「大変有意義であった」と「有意義であった」との回答が 97%であり、自由回答でも「とても有意義で授業に活用できる様に練習したい」「授業に使えるそうだと思います」など、たいへん実用的な講習であった。このような本学にあるリソースを活用してくような講習は今後も継続的に行っていく必要があると思われる。

研修会の回数は、昨年度 4 回、今年度 3 回と少なくなったが、参加のべ人数は約 5 割多くなっていた。したがって、今年度の FD 研修について日程やテーマはおおむね適切であったと思われる。次年度も、教員 (および職員) の興味関心に沿ったテーマの研修会を委員会として考え、教員 (および職員) の資質向上に努めていきたい。

文責：廣瀬 直哉 (心理学部心理学科 FD 委員)